

20 世紀後半から産業都市の衰退が始まった。産業都市は、工業によって多くの人口を養ってきたので、その衰退は、都市の荒廃又は縮小を意味した。対策は、いろいろあり得る。しかし、都市の規模、歴史的な位置づけ等を考慮すると、実際に採用できる方策は限られている。その1つが、創造文化的産業戦略であると考え。

本稿では、創造都市論の現在を知るため参加した、『国際創造都市フォーラム 2007 in OSAKA』(2007年10月24日(水)から27日(土)まで大阪市で開催。)における議論の一端を紹介したい。トピックスは、世界の創造都市の連携、創造都市と文化的多様性、創造都市における芸術家の役割及び創造都市の創造クラスターであった。参加者は、フォーラムの趣旨を意識し、常に creative であることに努めており、参加者の活発な議論は、このテーマに関心を有する人々の参考になると期待する。

目次

- 1 都市経済の再生
- 2 創造都市
 - (1) 創造都市の定義
 - (2) 創造都市とニュー・パブリック・マネジメント
- 3 世界創造都市フォーラム 2007 in OSAKA
 - (1) 注目した発言
 - (2) 共催者、開催趣旨及びプログラム
 - (3) アジェンダ(和英)

1. 都市経済の再生

古代及び中世の都市は、政治権力の所在地及び商業集積であり、手工業等を有していた。西欧では、ルネサンス期に、商業が興隆し、都市が域外に付加価値を移出し、所得を得る「基幹産業」となった。更に、産業革命が都市の在り方を変えた。都市は、その内に「基幹産業」として機械制工業をもつようになった。¹

英国のマンチェスター、リヴァプール等、米国五大湖畔諸都市、我が国の京浜、京阪神工業地帯その他の都市は、産業都市であった。1970年代に「脱工業社会(物的エネルギー・資源ではなく、情報・知識が決定的に重要な役割を果たす社会)」の到来が予想されたが、新興工業国・地域の登場、社会主義経済圏の崩壊後のグローバリゼーションの進展等に伴い、先進諸国の多くの産業としが現実に衰退した。これらの都市を再生するためには、住宅、教育、福祉等に係る施策にとどまらず、都市の人口を支える産業を新たに起こすことが必要になった。そのため戦略は、都市の歴史、構造、知識インフラストラクチャの賦存状態その他により多様となるが、少なくとも、次の5つがあげられる。²

金融を中核とする世界都市化

¹ 小長谷一之著『都市経済再生のまちづくり』(2005、古今書院)

² 2007年2月8日、(財)建設経済研究所主催講演会における小長谷大阪市立大学大学院創造都市研究科教授の講演に基づく。

ニューヨーク市、ロンドン市等が典型であるが、そもそも、そうした世界都市 = 金融センターは、極めて限られた数しか存在し得ない。我が国で候補になるのは、東京のみ。したがって、他の都市には無縁な戦略。

IT 産業、バイオテクノロジー等の先端産業の振興

新興工業国との価格競争を避け、新たな高付加価値産業を育てることは、有力な戦略である。ただし、バイオテクノロジー産業の場合、その都市における大学・研究施設の集積が要件になる。

観光による地域振興

観光は、他の産業と異なり、都市外の人々はその都市を訪れることにより、所得をもたらす。観光も「基幹産業」となり得る。

製造業の工場誘致

グローバル化に伴い、低賃金の海外への工場立地が主流であるが、研究開発との連携、ノウハウ保護、「つくりこみ」重視等の理由から、国内立地が見直されている。製造業は、雇用創出効果が大きい。

創造産業戦略

その都市の文化・芸術の蓄積を生かし、創造産業 (creative industry) を育成する戦略。

2. 創造都市

(1) 創造都市の定義

『国際創造都市フォーラム 2007 in OSAKA』を主導した佐々木雅幸大阪市立

大学大学院創造都市研究科教授は、創造都市を次のように定義する。³

以上みてきた創造都市の理論的系譜をふまえて定義すると、「創造都市とは人間の創造活動の自由な発揮に基づいて、文化と産業における創造性に富み、同時に、脱大量生産の革新的で柔軟な都市経済システムを備えた都市である」と言うことができよう。そして、この創造都市は、「21 世紀に人類が直面するグローバルな環境問題やローカルな地域社会の課題に対して、創造的問題解決を行えるような『創造の場』に富んだ都市」でもある。

フォーラムにおいて、佐々木教授は、「創造都市」と「創造文化的産業」が一致しないことに注意を喚起した。フォーラムの議論を聴いた後では、「『創造文化的産業』は、芸術文化に限らず、科学、コンピュータ、建築、工業デザイン、メディア等専門職業サービス (professional services) を含む。職人企業、芸術文化と住民自治が存するポローニャのような、市民に自由な発想が浸透している場こそ、創造都市であり、創造産業の存在のみでは、創造都市は未だ成立しない。」というのが、筆者の解釈である。

(2) 創造都市とニュー・パブリック・マネジメント

「創造都市とはなにか？」は、後述の、世

³ 佐々木雅幸著『創造都市への挑戦 産業と文化の息づく街へ』(2001、岩波書店) pp.40-1

界創造都市フォーラムでの議論から判断頂きたいが、それらをご紹介する前に、行政におけるニュー・パブリック・マネジメント(NPM)と若干比較したい。

NPM は、1980 年代以降、英米をはじめとする先進諸国で進められてきた、行政システムに係るパラダイムの転換(paradigm shift)を指す。英国のサッチャー政権は、公的部門に、民間企業の成果主義経営(performance management)を取り入れ、国民を行政サービスの顧客と位置づけ、より少ない予算でより多くの質の高い行政サービスを提供することを目指した。そのため、行政サービスを測定する基準を導入し、成果を公表した。更に、行政マネジメントを容易にするため、企画・立案と執行を機能分離し、executive agencies(我が国の独立行政法人の元祖)を創設した。

その後、サッチャー政権に続くメイジャー政権及びブレア政権(労働党)、米国のクリントン政権をはじめ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド等がNPMを推進した。⁴

NPM は、19 世紀以来の、法令で責任・権限を明記し、組織中央が事前に定めた規則に基づいて全組織を統制する方式(マックス・ヴェーバにちなんで、「ヴェーバ型」と称される。)を変えた。執行に係るマネジメントは、現場に委譲された。その代わり、達成目標に照らして成果が測定・点検される。

情報システムに喩えれば、ヴェーバ型は、メインフレームと端末から構成されるシステム。一方、NPM は、クライアント/サーバ・モデルのオープン・システムであろう。

創造都市は、従来の産業都市が、議会で定めた都市計画及び産業振興策を通じて持続性及び発展を図ってきたのと異なり、創造の場にある人々と、自由で創造的な気風を共有する市民の活動がより重要であると考ええる。すなわち、従来の産業都市と創造都市の関係は、1980 年代以前の行政システムとNPM後の行政システムの関係に相当し、情報システムの世界の変化にも照応する。

それぞれの分野におけるパラダイム転換は、時間的な前後関係はあるものの、共通の根が感じられる。先進諸国激動の1960年代を経て、従来の考え方にとらわれない自由な個人の営為を尊重するからだ。

3. 世界創造都市フォーラム 2007 in OSAKA

(1) 注目した発言

学術的フォーラムは、1つの主題に関して、専門的な知識・知見を有する人達が一堂に会して、自由な意見交換を行う場であるから、多くの注目すべき発言を聴くことができる。今後、創造都市を考えていく上で、特に、鍵となりそうな発言を記すこととする。

[筆者の聴いた第1日及び第2日に限る。
(2)に掲載したプログラムを参照。]

[佐々木教授]

- UNESCO 創造都市の global alliance は、都市が国を超える時代のもの。
(創造都市連携フォーラム 第2部 パネルディスカッション。以下、「D1-2」)
- パラダイム・シフトが、ソリューションとなる。

(国際シンポジウム 新・都市の時代 - 創造

⁴ 国土交通省国土交通政策研究所『建設政策における政策評価に関する研究 - 政策評価用語集』(2000、PRC Note第24号)

都市の発展と連携を求めて - 第1部。以下、
「D2-1」)

〔C.ランドリー・英シンクタンク〈コメディア〉
代表〕

- 創造都市は、強いアーツの伝統 (a strong arts fabric) を有する。
- 創造都市は、創造的な経済と同義である。
- 創造都市は、大きな創造的階層 (芸術家、知識ワーカー、科学者) を有する。
- 創造都市は、「市民誰もが潜在的に創造的である」と認める文化を有する。
- 歴史と創造性は、偉大な相棒同士である。
- 創造においては、holistic thinking⁵ が大事。
- 創造的な人間関係は、各プレーヤーが対等なジャズのジャム・セッションである。指揮者がすべての決定を下す交響曲ではない。
- Be best, not in, for the world.
(以上すべて、創造都市連携フォーラム第1部。以下「D1-1」)

〔B.ザッキローリ ポローニャ市国際担当市長補佐官〕

- 〔15世紀以来のポローニャの長い商業的・学問的・芸術的蓄積を強調し、〕創造性は、即席ではない。(Creativity is not improvisation.) 「D1-1」

⁵ 「全体論的思考」と訳される。一般に、科学においては、事物の認識に際して、事物を単純な要素に還元し、その後、それを総合する。これが「還元論」。「全体論」は、複雑な全体を、そのまま認識する。

〔M.=J.ラクロワ モントリオール市都市デザイン担当局長〕

- 〔デザインには、服飾、建築、工業等多くの産業セクターが含まれるが、〕1つのセクターに限定した戦略ではなく、セクターを跨いだ戦略を優先する。「D1-1」
- 創造的な市民の存在が鍵だが、まず、市民の参加が決定的に重要。「D1-1」
- 創造都市への市民参加に先立ち、〔モントリオールが UNESCO デザイン都市に指定されたことについて〕市民への周知活動が重要。「D1-2」

〔レベッカ・ワーズバーガー サンタフェ市議会議員〕

- 創造文化的産業の育成が最優先の課題である。「D1-1」

ハン ジン

〔潘瑾 上海クリエイティブ・インダストリー・センター副所長〕

- 上海市は、中国で始めて、創造都市を宣言。創造文化的産業の産出が地域 GDP の 5.8% である。

〔井越将行 大阪市副市長〕

- 重視するイメージは、アーツ (芸術、技術等) とビジネスが融合する都市。「D1-1」
- 人、市民の知恵・知識、ストック活用に転換する。「D1-1」

〔川崎賢一 駒沢大学グローバルメディアスタディーズ学部教授〕

- 新しい中産階層による安定をつくるための創造都市。「D2-1」

[アンディ・プラット ロンドン大学LSE教員]

- 創造都市に至るには、社会運動が必要。「D2-1」

[アン・マークセン ミネソタ大学教授]

- 芸術家は、gentrification⁶を起こす人々(causer)である。「D2-2」

これらの発言は、都市開発に関するパラダイムがいま変わりつつあることを、強く印象付ける。そもそも、「創造的」とは、いままでになかったなにかを想像し、作り出すことであろう。したがって、「創造的」の語は、元来、視点の転換を含んでいる訳だ。一旦、「創造的」を目標に掲げれば、新しい発想への道が拓ける。それは、多くの場合、個人の自由とその果実への信頼であるように思える。

ある都市に備わった文化的多様性は、市民が自己の文化を相対的に見ることを可能にさせるであろう。また、芸術家は、常に囚われない視点をもち続けることが命であり、その存在は、芸術家の住む街区のイメージをも転換する力がある。これらの点について、フォーラムの成果を踏まえて、より一層の理論の精緻化と実践が続くことを期待する。

(2) 共催者、開催趣旨及びプログラム⁷

⁶ 「1)新しい産業部門に従事するなど、新しいワークスタイル・ライフスタイルをもつ、2)年齢的には若い人たちが都市中心部などにある衰退した街区に魅力を感じて居住・就業を始めることによって、地域が活性化することを言う。」 - 小長谷(2005) p.100

⁷ 大阪市立大学大学院創造都市研究科ウェブサイト

http://www.gsc Osaka-cu.ac.jp/events/2007/forum_071024.html及び同フォーラム第1日

共催者

大阪市立大学大学院創造都市研究科・都市研究プラザ、大阪市、(財)大阪 21 世紀協会、大阪商工会議所、(財)大阪国際交流センター

開催趣旨

グローバル化と知識情報社会への移行の中で、映像・音楽・美術など文化コンテンツを活かした新たな「創造産業」がクラスターを形成し、ハイテク技術者やアーティスト、クリエイターなどの「創造階級」が好んで暮らす「創造都市」の発展に大きな注目が集まっています。欧米に発したこの「創造都市」の波は、日本や経済発展の著しい東アジアの都市や地域にも達し、大阪をはじめ日本国内では札幌、横浜、金沢、名古屋、神戸などが、また、アジア諸地域では香港やシンガポール、上海、ソウル等が「創造都市」を政策目標に掲げており、その数は急速に増加しています。

「世界創造都市フォーラム 2007 in OSAKA」では、こうした都市間の競争の深化を念頭に置きつつ、個性を際立たせた創造都市がネットワークを組んで発展する可能性について、国内外から研究者・都市政策担当者を招き、連携フォーラムやシンポジウム、ワークショップといった多様な形態で多面的に議論するとともに、交流を深めます。

プログラム [敬称略]

(1) 創造都市連携フォーラム

日時 10月24日(水)午後1時30分～午後5時15分

内容 ユネスコが世界の文化的多様性の

の配布資料記載プログラム及び第2日の配布資料記載プログラムから再構成。

理解に世界の都市が貢献していくことを目的としてスタートさせたプロジェクトである、「クリエイティブ・シティ・ネットワーク」の加盟

都市をはじめ、創造都市をめざす国内外の諸都市の都市政策担当者をお招きし、市民等の参画による創造都市発展への取組み



写真提供:大阪市立大学大学院創造都市研究科 都市研究プラザ

や創造都市をめざす都市の交流・連携について意見交換し、創造都市の発展に不可欠な「連携」のあり方を探ります。

第1部 各都市事例報告

第2部 パネルディスカッション

(コーディネータ)

佐々木雅幸(大阪市立大学大学院創造都市研究科教授 都市研究プラザ所長)

チャールズ・ランドリー(シンクタンク「コメディア」代表)



佐々木教授

写真提供:大阪市立大学大学院創造都市研究科 都市研究プラザ



ランドリー代表

写真提供:大阪市立大学大学院創造都市研究科 都市研究プラザ

(パネリスト)

ベネデット・ザッキローリ(イタリア・ボローニャ市<ユネスコ音楽都市>国際担当市長補佐官)

マリー＝ジョゼ・ラクロワ(カナダ・モントリオール市<ユネスコデザイン都市>都市デザイン担当局長)

レベッカ・ワーズバーガー(米国サンタフェ市<ユネスコフォーク・アート都市>市議会議員)

パンジン

潘瑾(中国・上海市<大阪市姉妹都市>上海クリエイティブ・インダストリー・センター副所長)

井越将行(大阪市副市長) の各都市政策担当者

(2) 国際シンポジウム「新・都市の時代 創造都市の発展と連携を求めて」

日時 10月25日(木)・26日(金)午前9時30分～午後9時30分

内容 2004年2月、2005年12月に開催した「新・都市の時代 創造都市の挑戦」

「新・都市の時代 創造都市を創出する」の2つのシンポジウムを継承し、その集大成として、「創造都市と文化的多様性」「創造都市における芸術家の役割」「創造都市と創造クラスター」の3つのテーマに基づき、世界の創造都市の先進的な事例の報告と議論を通じて、創造都市の発展と連携をめざした理論的かつ実践的な討議を深めます。

10月25日(木)

シンポジウムの概要説明と問題提起

佐々木雅幸(大阪市立大学大学院創造都市研究科教授 都市研究プラザ所長)

セッション1「創造都市と文化的多様性」

チャールズ・ランドリー(シンクタンク「コメディア」代表)

川崎 賢一(駒沢大学グローバルメディアスタディーズ学部教授)

セッション2「創造都市における芸術家の役割」

アン・マークセン(ミネソタ大学教授)

河島 伸子(同志社大学経済学部教授)

10月26日(金)

セッション3「創造都市と創造クラスター」

アンディ・プラット(ロンドン大学LSE教員)

瀬田 史彦(大阪市立大学大学院創造都市研究科准教授)

総合討論

座長 矢作 弘(大阪市立大学大学院創造都市研究科教授)

(3) ワークショップ「メディアアートと大阪の可能性」

日時 10月27日(土)14:00~16:00

会場は大阪市役所<玄関ホール>

内容 講師に、著名なCGアーティスト 河口洋一郎先生をお迎えし、最先端のメディアアート作品の上映と世界そしてアジアのメディアアートの最新動向に関するトークセミナーをおこないます。その後、大阪におけるメディアアート創造の潜在力について、また、それが大阪を創造都市とするための起爆剤になるのかどうかを、参加者と一緒に考えます。

ゲスト:河口洋一郎 など(CG アーティスト、東京大学大学院情報学環教授)

(3) アジェンダ(和英)

2007年10月26日(金)世界創造都市フォーラム参加者は、3日間の発表及び討論の結果を踏まえ、次の諸課題について合意した。⁸

[以下、和文アジェンダ全文]

アジェンダ「創造都市の発展と連携を求めて」

世界創造都市フォーラム 2007 in Osaka に参加した私たちは、創造都市連携フォーラム(10月24日)及び、国際シンポジウム「新・都市の時代 - 創造都市の発展と連携

⁸ 筆者は、10月24日(水)及び25日(木)のプログラムに参加し、アジェンダ採択に居合わせなかったため、大阪市立大学大学院創造都市研究科 都市研究プラザに提供頂いた。

を求めて」(10月25・26日)の3日間の発表と討論を通じて、以下の点にかんして、共通の目標をもって行動することを宣言するものである。

「創造都市」はグローバル化し、知識情報化した21世紀社会における新しい都市モデルとして、また、都市政策の目標として、研究者のみならず、世界中の都市に暮らす市民、都市政策を担当する行政にとって、きわめて重要なものとなりつつある。

創造都市の実現と発展のためには、ユネスコが進めるグローバルなレベルでの都市相互の連携のみならず、アジアレベル、全国レベルでの連携から学ぶとともに、都市内部における公共セクター、民間セクター、市民セクターの相互連携も不可欠であり、多層的で多面的な連携を深めること、そして、そのための多様なプラットフォームを各都市が提供するように働きかける。

創造都市をさらに発展させるために、成功要因の研究とその評価をおこない、以下の点に関する討論を深めて、都市政策の理論的政策的進化に貢献する。

- (1) 都市固有の文化と文化的多様性にもとづく創造都市の展開
- (2) 都市経済のさらなる発展にとって創造性が果たす役割
- (3) 都市問題を創造的に解決できるように公共、民間、市民セクターの組織の役割と目的を見直し、運営する方法
- (4) 創造都市において芸術家が果たす文化的、社会的、経済的な役割の

重要性
(5) 創造都市の経済的エンジンとしての
創造文化的産業の発展

以上の諸点を参加者一同で合意し、各方面に働きかけるものである。

2007年10月26日

世界創造都市フォーラム参加者一同

[以上、和文アジェンダ全文]

[以下、英文アジェンダ全文]

Agenda "Developing Creative Cities
through Networking"

We have participated in the World Creative City Forum 2007 in OSAKA, "Forum for Networking Creative Cities"(October 24th) and "International Symposium: The Age of City – Developing Creative Cities through Networking"(October 25th and 26th).

Based on the presentations and discussion in those three days we declare that we shall act with the common objectives as regards the following points:

"Creative Cities" are becoming extremely important for urban citizens and urban policy administrators as well as academics as a model of a city in the society of twenty first century

characterized by globalization and the progress of knowledge – based economy and also as a goal of urban polices.

In order to realize and to develop creative cities, not only do we need the global level inter-city partnerships promoted by UNESCO, but we also need to learn from partnerships seen at the Asian level or the national level as well. Collaboration among the public, private and civic sectors within the cities is also essential: We appeal for a multilayered and multifaceted partnership formation and encourage each city to provide diversified platforms towards this end.

To develop creative cities further, we would, continue to research of success factor and the evaluation and to discuss the following area thus contribute to theoretical evolution of urban policies.

- 1) The development of creative cities based on their embedded culture and cultural diversity.
- 2) The role of creativity helping cities to become more successful in the emerging economy.
- 3) How organizations in the public, private & NPO sectors need to rethink their role & purpose and how they are organized and how they manage in order to help cities imaginatively take opportunities and solve their problems.

- 4) The significance of cultural, social and economic roles that artists play in creative cities
- 5) The development of creative cultural industry as an economic engine of creative cities

We participants of world creative city forum 2007 in Osaka agreed above and committed ourselves to work on in our respective areas.

October 26, 2007

Issued by the participants of World
Creative City Forum 2007 in OSAKA

【以上、英文アジェンダ全文】

(了)